

自転車を安全で快適にご使用いただくために！

取扱説明書

本格スポーツ車、一般スポーツ車編

このたびは、当社の自転車をお求めいただきまして、ありがとうございました。

警告

自転車を安全で快適にご使用いただくために、この取扱説明書をよく読み、理解してから自転車を使用してください。
不適切な取扱いや、調整は、人身事故につながる危険があります。
警告、禁止、注意事項を必ず守ってください。

- この説明書は、本格スポーツ車、一般スポーツ車編です。
お求めになった自転車にあてはまらない内容も含まれています。不明なところはお買い求めの販売店におたずねください。
(折りたたみ車、輸行車はこの説明書と合せて専用説明書をお読みください。)
- 防犯登録
防犯登録は、販売店にて必ず行ってください。
- 品質保証書
品質保証書は、必ず「お買い上げ日、販売店名、車体番号」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。記入が漏れている場合は、販売店にて請求ください。
- 保護者の方へ
お子様が使用される場合は、必ず、保護者の方がよく読んで、正しい乗り方と注意事項等について、よく指導ください。
- 読んだ後、大切に保管し、必要に応じて活用ください。
自転車を他人に譲る場合は、この取扱説明書も添付してください。
- 購入後の初期点検、および定期点検は、ご愛乗者手帳(4～7ページ)に従い、必ず実施してください。
- この自転車の取扱い、点検、調整、その他についてご不明な点はお買い求めの販売店にご相談ください。

品質検査印 1

品質検査印 2

株式会社 阪和
大阪市浪速区元町3-11-16
カスタマーサポートセンター 050-3505-7050

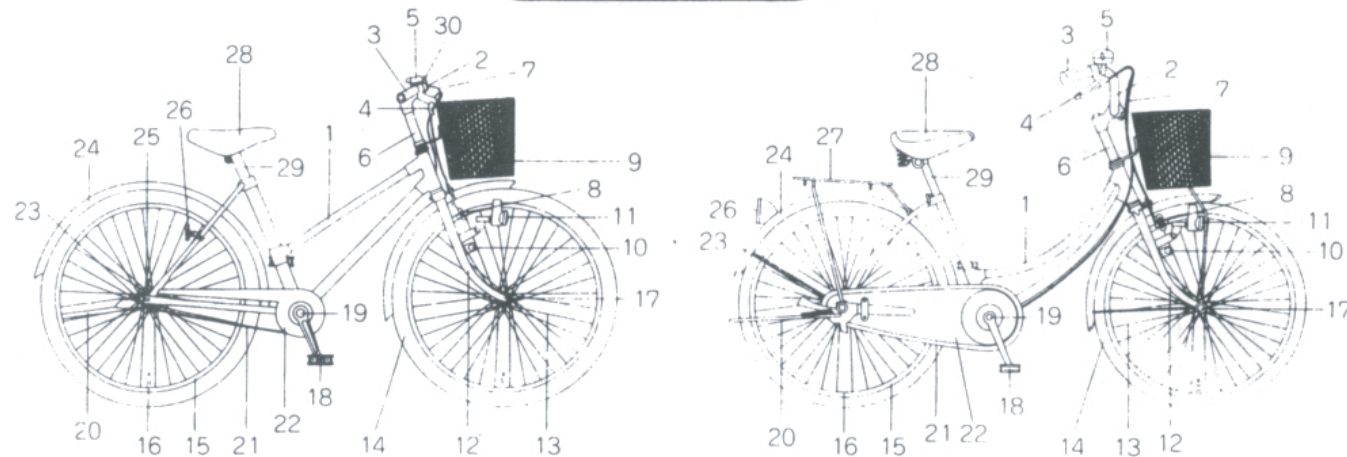
目次

- 1.自転車各部の名称・・・1P
- 2.お守りください!警告・注意・禁止事項・・・2P
- 警告事項・・・2P
- 注意事項・・・4P
- 3.前輪ロックに注意・・・5P
- 4.乗る前の注意・・・6P
- 5.乗る前の点検・・・6P
- 6.正しい使用条件・・・8P
- 7.主な各部の取扱いと調整・・・8P
- 注油について・・・15P
- お手入れと保管・・・15P
- こんなときどうするか・・・15P
- 8.交通ルールを守りましょう・・・16P
- チェックリスト・・・17P
- 品質保証書・・・17P
- 保証規定・・・18P

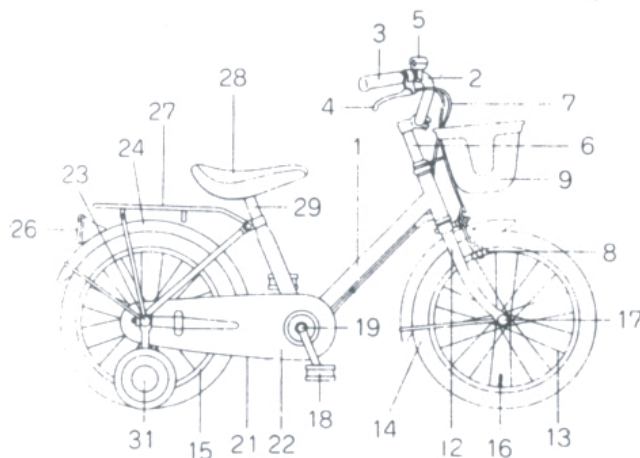
1. 自転車各部の名称

図で説明する自転車は各車種の一般的な仕様です。お客様がお求めになられた商品とは一部異なる場合があります。

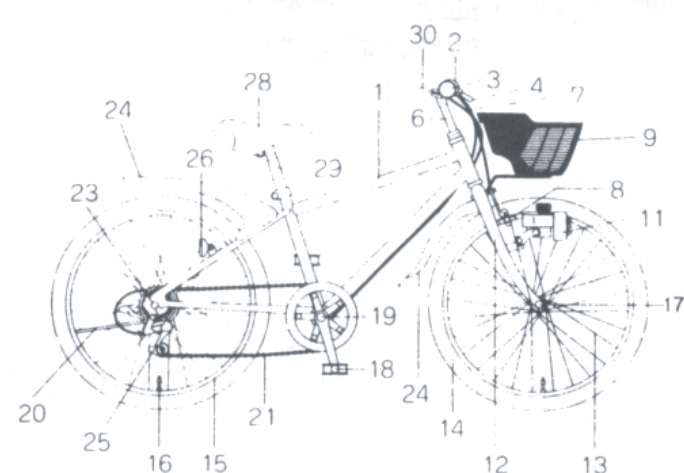
シティサイクル 軽快車



子供・幼児車



シティバイク

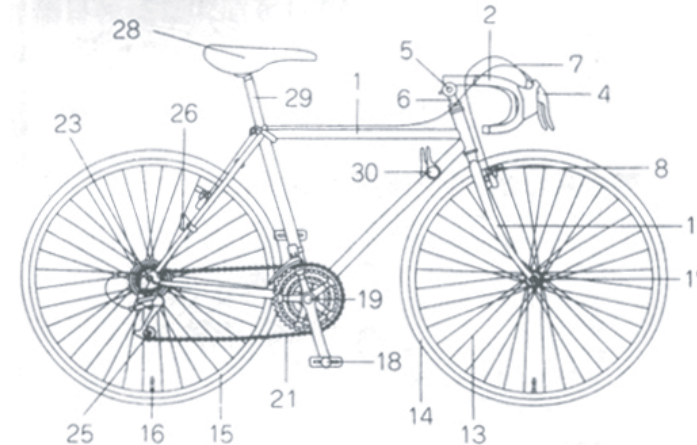


※ここで説明する自転車は一般道路用の自転車です。凹凸の激しいオフロードは走行できません。
※詳しくは、販売店でおたずね下さい。

マウンテンロック



スポーツ車



番号	各部の名称
1	フレーム
2	ハンドル
3	ニギリ
4	ブレーキレバー
5	ベル
6	ハンドルポスト
7	ブレーキワイヤー
8	ブレーキ
9	前カゴ
10	錠
11	ランプ
12	前ホーク
13	スポーク
14	タイヤ
15	リム
16	タイヤバルブ
17	前ハブ
18	ペダル
19	ギヤクランク
20	スタンド
21	チェーン
22	チェーンケース
23	後ハブ
24	泥除
25	変速機
26	リフレクター
27	リアキャリア
28	サドル
29	シートポスト
30	変速レバー
31	補助車
32	セフティフック

2. お守りください! 安全上の警告・注意・禁止事項

お使いになる人や他人への危害、財産への損害と自転車の損傷を未然に防ぐ為に、必ずお守りください。又、自転車にはられた警告シールは、はがさないでください。



警告事項

■山岳・河川などでは、絶対に使用しない

- ハンドル・フレームなどが折損したり、ブレーキがきかなくなったりして、転倒してケガの恐れがあります。

■二人以上で乗ったりアクロバットのな乗り方はしない

- 二人乗りは法律で禁止されています。またアクロバットのな乗り方やハブステップに乗るのは大変危険ですので絶対にやめましょう。



二人乗りは禁止



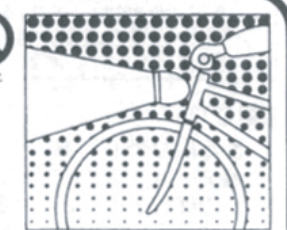
アクロバットのな乗り方は禁止



ハブステップの取付けは禁止

■無灯火で乗らない

- ★夜間、ご乗車の際は必ず、ヘッドランプを点灯してください。
- ヘッドランプの明かりは路面状態を見るのみでなく、他の車両や歩行者からの視認をしやすい効果があります。



- ヘッドランプが標準装備されていない機種には別売のヘッドランプを必ず装着してください。
- ランプがつかないときは、押して歩いてください。
- ランプが破損した場合は、すぐに交換してください。

■幼児の夜間走行の禁止

- 幼児には、夜間、自転車に乗せないようにしてください。

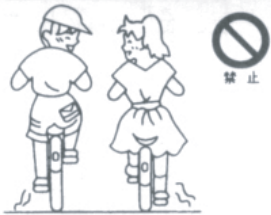
■飲酒しているときは絶対に乗らない

- 病気やケガで安全運転ができないときは乗らない。
- 事故などによるケガの恐れがあります。

警告事項

■並走の禁止

二台以上で走行するときは、一列に並んで走行してください。



■積載条件を超える荷物は積まない

荷物を積み場合は規定の大きさ、重量を守って、ズレたり、ヒモがゆるんだりしないようご注意ください。

●バランスをくずし、転倒の恐れがあります。(8P参照)

●幼児車には、荷物をつまみください。



■シートポスト及びハンドルポストは限界標識が見える状態で乗らない

シートポスト及び、ハンドルポストの限界標識線がフレームの中にかくれる状態で乗ってください。

●サドルやハンドルの折れや抜けにより転倒し、ケガをする恐れがあります。



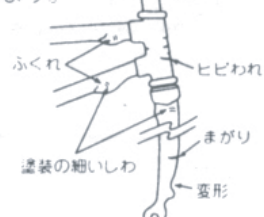
■異常(変形やひび割れ、ねじのゆるみ等)があるときは乗らない

●点検せず異常のあるまま走行すると事故や転倒によるケガの恐れがあります。

●異常を発見したら販売店にご相談ください。変形、ヒビわれ等、異常のある部品は必ず交換してください。

●曲がりを直しての再使用は破損の原因になりますので、絶対にしないでください。

※衝突したとき前ホークが曲がることによりショックを吸収し乗員のケガを防止する役目をもっています。



■リフレクターは汚れていたり破損したまま乗らない また取り外して乗らない

●テールランプ及びリフレクターは車両からの確認をする上で大変重要ですので必ず取り付け下さい。汚れや損傷のない状態でご使用下さい。

●破損した場合は、すぐに交換してください。交換するときは、橙色又は、赤色のものを使用し、反射面の傾きは進行方向垂直に対し上下左右5度未満になるようにしっかり固定してください。

■ハンドルの形を変えない

●ハンドルを上向きや前向きにして乗ると乗車姿勢が不自然なため走行が不安定となり、転倒しケガをする恐れがあります。



■車輪やサドル・ハンドルの締付けを確認せずに乗らない

●車輪やサドル・ハンドルが外れて転倒によるケガの恐れがあります。(6P参照)

■視界の悪いときは乗らない

●見通しが悪いときは衝突や転倒の恐れがあります。

(このような場合は押して歩いてください。)



■凹凸の激しい所を走らない

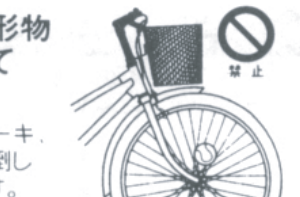
●ハンドルがとられたりふらついたりする上、タイヤ・リムを損傷します。

★自転車降りて押して歩いてください。



■スポークの間に固形物(ボール等)を入れて走らない

●ボールが移動し、ブレーキ・ダイナモに接触し、転倒したりする恐れがあります。



■走りながら足で発電ランプの操作をしない

ダイナモの手元起倒装置のない自転車のダイナモ及びバッテリーランプの起倒は必ず停車し、手で操作してください。

●足での操作は足や靴が車輪に巻き込み転倒する恐れがあり危険です。



■幼児を乗せない

●自転車に倒れ、ケガをする恐れがあります。

※幼児用子供乗せの取付可能な自転車については(12P参照)



■手やハンドルに荷物を引っかけたりペットをつながない

●荷物やひもが車輪に巻き込まれたり、バランスをくずして転倒し、ケガの恐れがあります。



■荷物はキャリヤ(荷台)やバスケットに積んでください。

■前カゴにペットを乗せない

●ペットが急に飛び出し大変危険です。



■走行以外のことに使用しない

自転車走行以外の事(踏み台替わり等)に使用しないでください。

●転倒によるケガの恐れがあります。



警告事項

■ニギリのゆるんでいるものには乗らない

●ニギリの弾性が低下し回るものはハンドルから抜ける恐れがあり大変危険です。自転車販売店で、すぐに取替えてください。



■ブレーキの制動面に注油しない

●ブレーキに関係する箇所のうち、リム、ブレーキゴム、バンドブレーキのドラム内等には絶対に注油したり油布でふいたりしないでください。ブレーキがきかなくなり大変危険です。



■自転車の改造をしない

★修理や分解、部品の組付けは、販売店にご相談ください。

★ハブステップの装着は危険な改造です。

★取扱説明書に記載されている調整箇所以外の箇所を調整することはやめてください。万一、不当な改造が起因と判断される故障は保証の対象外となります。



■回転部には触れない

(前・後車輪、ギヤクラック、チェーン部)が動いているときは手、足で触れないでください。

★特に掃除やお子さまが遊んでいるときなどに回転部に手や足を突っこまないよう注意してください。



■セフティフックを取り外さない

(マウンテンバイクの場合)

★セフティフックは取り外さないでください。万一のブレーキワイヤー切れなどにより、ワイヤー等がタイヤに当たり前車輪がロックするのを防ぐものです。



■プラホイ付自転車には前輪錠をつけない

取付け可能な車種もありますので、販売店にご相談ください。

■合図をするとき以外ハンドルから手を離さない

●危険回避など急な操作ができず衝突や転倒の恐れがあります。

★雨の時に傘をさしての片手運転等はしないでください。



■傘やステッキ、釣さお等を車体に差し込んだり、吊り下げたりしない

●車輪をロック(固定)させたり、歩行者にケガをさせる恐れがあります。

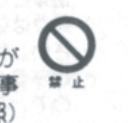
■雨の日やぬれた道、下り坂ではスピードを出さない

●ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため思わぬ事故や転倒によるケガの恐れがあります。特に急な坂道の上り、下りは自転車を降りて押して歩いてください。



■スピードを出しすぎない

●スピードを出しすぎると、ハンドル操作がむずかしく、ブレーキも効かなくなり、事故をまねく恐れがあり危険です。(8P参照)



注意事項

■カーブではスピードを出さない

●曲がりきれずに思わぬ事故をまねきます。

■カーブではブレーキをかけない

●横すべりをおこし転倒する危険があります。

★スピードを落として走りましょう。

■カーブで曲がる側のペダルを下げない

■滑りやすいところでは乗らない

●積雪や凍結した道、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷などでの運転はスリップ等をして大変危険です。

★自転車を降りて押して歩いてください。



■スタンドを完全にはね上げていない状態で乗らない

●カーブのときスタンドが地面と接触し転倒によるケガの恐れがあります。

●スタンドを上げるときは必ずロックを解除してください。



■走行中ブレーキワイヤーを引っばったり、曲げたりしない

■ギヤチェンジ(シフト操作)は一度に二段以上しない

●一気にギヤチェンジをするとチェーンが外れることがあり大変危険です。

★一段ずつチェンジしましょう。



⚠ 注意事項

■乗るときは安全な服装で

マフラーやスノの長いスカートなどの運転のしにくい服装はやめてください。
●長いズボンははいて乗車する場合は、車輪やギヤにからまること危険です。



■滑りやすい靴や、かかとの高い靴などをはいて乗らない

●足がペダルから外れ、転倒によるケガの恐れがあります。



■片側ブレーキはかけない

●片手だけ(特に前ブレーキ)のブレーキをかけるとバランスをくずして転倒し、ケガの恐れがあります。
★走行中は、常にブレーキレバーをすぐ握れるようにして、ブレーキは後ブレーキを前ブレーキよりわずかに先に軽くかけてから、前後ブレーキともかけてください。



■急ブレーキをかけない

●急ブレーキをかけるとスリップして転倒する危険があります。
★前方に注意して安全走行してください。



■長い下り坂などでのブレーキのかけっぱなしはしない

●ブレーキの制動部が発熱して、ブレーキがきかなくなり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。前後どちらかのブレーキレバーを時々はなして発熱をおさえてください。特にバンドブレーキや、ローラーブレーキは発熱しやすいので、ご注意ください。



■お子さまが乗られる場合は

ブレーキレバーに指がとどいているかどうか確認してください。又、正しいブレーキのかけかたが出来までくりかえし教えてください。

■雨、強風、雪のとき

●雨のとき

服装(雨具)をととのえる。カサを持つての片手運転は絶対にやめてください。雨ガッパやレインコートを着るときはズボンがひっかけたりしないようにズボンは必ずセフティバンド、輪ゴム又は、クリップなどで必ずとめてください。又、雨の日はブレーキも効きにくくスリップしやすいので、ゆっくり走りましょう。



●強風のとき

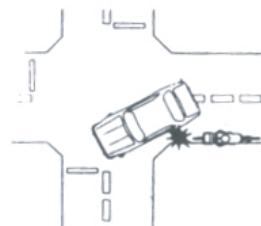
ハンドルがふらつきやすく安全に運転できません。無理に乗らずに降りて歩いて歩きましょう。

●雪のとき

雪の日には乗らないのがいちばんです。降りて押して行くように心がけましょう。又、冬の晴れた日でも日陰の路面が凍っていたり、雪が残っていたりしますので注意が必要です。

■自動車の左折車に注意

車道の左端を走っている自転車に左折する自動車にまきこまれる事故がよく起こっています。直進しようとするときは、左折車の動きに十分注意し、道路の左端を走るようにしましょう。トラックやバスの真うしろはバックミラーに入りません。信号で停止するときなど自動車の車線に入らないようにしましょう。



■自動車の横を走り過ぎるときはスピードを出さない

●自動車のドアが急に開き衝突の危険があります。



■駐輪時の注意

●駅前や商店街など自転車を乗っていった先で自転車を放置しないようにしましょう。駐輪するときは駐輪場に停めましょう。
●平坦な場所に必ずスタンドをロックし施錠しましょう。
●自転車使用後は、ブレーキに手を触れないでください。熱くなっている箇所がありますのでヤケドをする恐れがあります。

⚠ 3.前輪ロックに注意

※前輪ロックとは、走行中に前車輪の回転が瞬間的に急停止することです。衝突と同じ位の衝撃があり、前のめりに頭から転倒し大事故につながります。前車輪がロックされる原因には以下のような場合が考えられます。

1. ハンドルにぶら下げたバック等が前車輪や前車輪と車体との間に入ったとき。
2. 前カゴに入れたバンドや細長いヒモ状の物等が前車輪の間に入ったとき。
3. スピードを出して前ブレーキのみをかけたとき(5P参照)
4. 前子供乗せの子供の足が誤って車輪の間にはさまれたとき
5. ダイナモランプを足先で蹴って倒すとき誤って足を車輪の間に突っ込んだとき。又、そのときダイナモを倒してダイナモが車輪の間に入ったとき。(3P参照)
6. スポーク切れやその他の原因で、リムが横振れしタイヤが車体に接触したとき。
7. 衝突などで前ホークが曲がっていたり、ネジがゆるんでいたりして、ブレーキゴムがタイヤに当たったとき。(ブレーキゴムの位置に注意)(6P参照)
8. 外部から異物が車輪の間に入り込んだとき。
9. 前車輪のネジがゆるんでいて車輪が傾いてタイヤが車体に接触したとき。

安全には十分注意して走行しましょう。

⚠ 4.乗る前の注意

■まず体に合わせる

★図のようにサドルとハンドルの高さを販売店で調整してもらってください。(実際に乗って確認してください)。
●円滑なペダリングができるか?
●ベル、ブレーキ及びギヤチェンジが確実に操作できるか?
●ハンドル操作が容易にできるか?
(各部の調整の仕方は8Pを参照)
※フレーム・サイズが股下寸法に合わない場合には「正しい乗車姿勢」が調整できないこともあります。



■必ず点検をしてください

★乗る前には必ず点検をしてください。点検については6~7Pをよく読んで点検してください。
★わからない点は、販売店に相談してください。



■安全な服装で

★車輪に巻き込まれやすい服装はしない。
●ズボンのすそやチェーンへの巻き込みを防止するためズボンはズボンバンドでとめてください。
●靴はかかとの低い滑らないものをはいてください。



■乗る練習は

★練習をするときは、空き地や公園などの安全な場所で行いましょう。(よく練習してから一般道路でお乗りください。)



■初期点検及び定期点検は

購入後二ヶ月以内は、ネジのなじみなどの影響でゆるみなどが生じやすいので二ヶ月以内に初期点検を受けてください。また、その後は一年ごと及び異常を感じた場合には、点検を受けてください。(有料)

●定期点検、整備を受けていないと保証の対象外となることがあります。

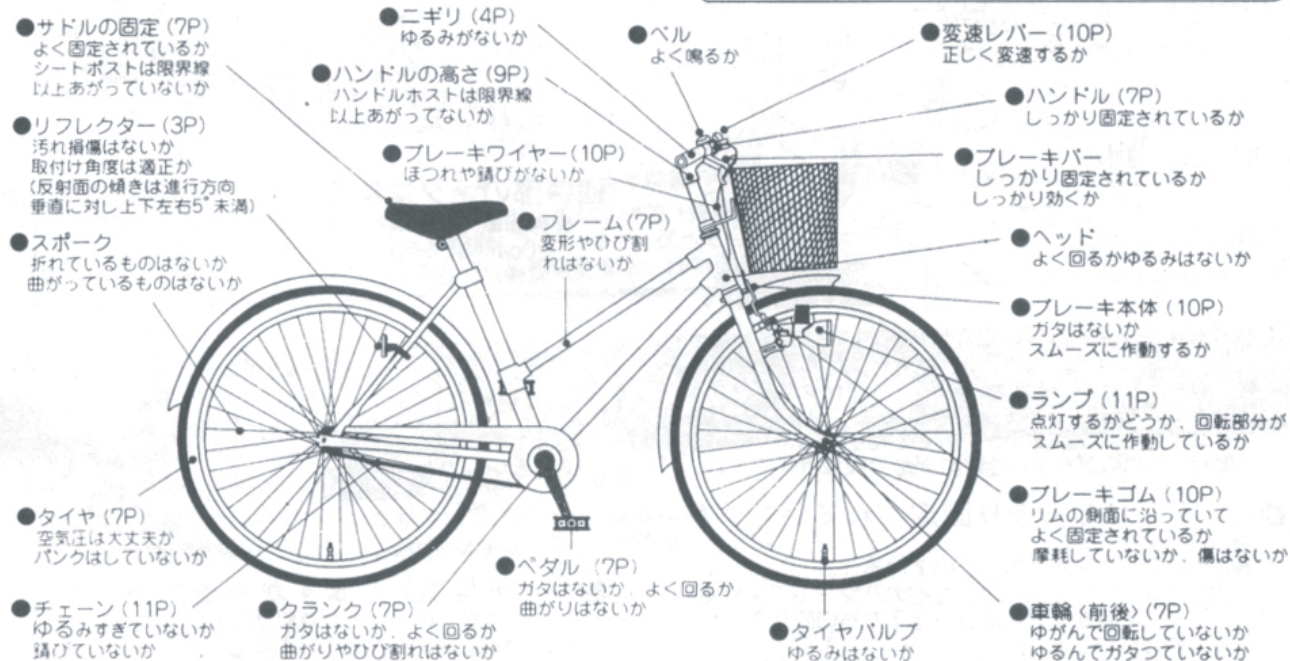
⚠ 5.乗る前の点検

※点検ができないお子さまのために必ず保護者がおこなってください。

■日常点検と調整のポイント

★安全に乗っていただくために、乗車前に次の点検を実施してください。
★点検、調整後は、試乗を行ってください。
★異常があったときや不明な点があるときは、乗車せずに販売店にご相談ください。

●ブレーキワイヤーは異常がなくても1年に1回は交換してください。
●タイヤは接地面のトレッド溝が一部でもなくなる前に交換してください。
●ブレーキゴムは制動面の溝が残り1mmになる前に交換してください。



■正しい乗車姿勢がとれますか

サドルにすわったとき、サドル、ハンドル、ブレーキレバーの位置は適正ですか。(8P参照)

■タイヤはパンクしていませんか

乗車になるときはパンクの確認をしてください。タイヤを押さえてへこむようではパンクしている可能性があります。

■タイヤの空気圧は十分ですか

乗ったとき地面との接地面の長さが9~10cmくらいになるのが標準です。空気圧が低すぎるとタイヤの損傷が早くパンクの原因となり、又、車輪の回転が重くなります。



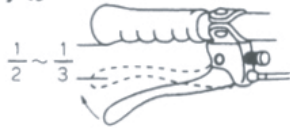


5. 乗る前の点検

注意

■ブレーキはよく効きますか

左右のブレーキレバーを握って操作したとき、ブレーキレバーとニギリとの間が $\frac{1}{2} \sim \frac{1}{3}$ になるまでにブレーキが効きますか。



●ブレーキのきき具合の簡単な点検方法の例



前ブレーキの点検：前車輪を地面に強く押しつけて、前ブレーキをかけながらハンドルを前方に押したとき、前車輪が回るかどうかが点検します。もしこれで回るようならブレーキのききが良くないので整備が必要です。後ブレーキの点検：前方水平にした状態で、後ブレーキをかけながら片足でペダルに乗り全体重をかけたとき、後車輪が回るかどうかが点検します。もしこれで回るようならブレーキのききが良くないので整備が必要です。ブレーキレバーの作動には、特に注意しワイヤーのサビ、折れ曲がりがないか。サビや折れ曲がりがあると、ブレーキレバーの作動が重かったり、ブレーキが効かないことがあります。

●お子さまが乗られる場合は

ブレーキレバーに指がとどいているかどうか確認してください。又、ブレーキのかけかたをくりかえし教えてください。

■車輪はしっかり固定されていますか

自転車を持ち上げて、タイヤを上から強く叩いたとき、車輪がしっかり固定されているかどうか。



●クイックリリースハブの場合は

クイックレバーが、「CLOSE」のマークが見える位置に強く締付けられていますか。もし、クイックレバーが「OPEN」の位置になっている場合又は、「CLOSE」のマークが見える位置になっていても完全に締まっていな場合は、車輪がハズれる恐れがあり大変危険です。

■ハンドルはしっかり固定されていますか

●うごきはないか。

●前輪に対して直角に取りついているか。

★固定の確認は、大人の方が左右のハンドルニギリ部をもって前輪を両足にはさみ上下左右に回そうとしても動かないこと。

●ニギリがゆるんでいないか。又、図のように両手で押し下げても動かないこと。

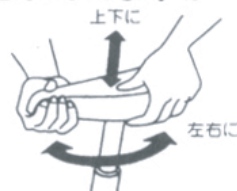


※点検できないお子さまのために必ず保護者がおこなってください

■サドルはしっかり固定されていますか

上下、左右及び前後にガタや動きがないか。フレームとまっすぐに取付いているか。

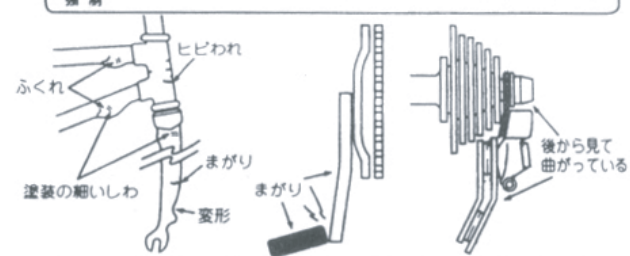
★固定の確認は、おとなの方がサドルの前後をもって上下左右に力を加えて動きのないこと。



■フレームや前フォークの変形やひび割れ等はないか、ペダル軸やギヤクランクに曲がりやひび割れ、塗装の細いしわ等はないか

■ディレーラー（変速機）に変形はないか

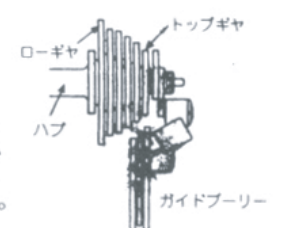
●変形している部品は、お買求めの販売店で必ず交換、修理をするようにしてください。



●曲がりを直しての再使用は絶対にしないでください。破損によるケガの恐れがあります。

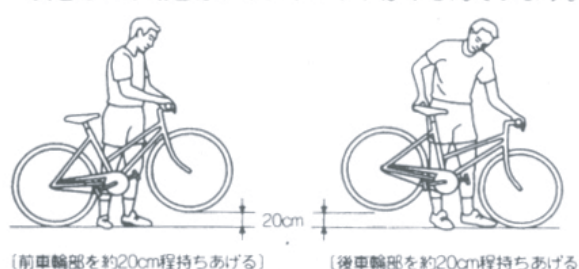
■ディレーラー（変速機）は正常に作動しますか

★クランクを回転させながら変速レバーを操作したときギヤチェンジ（変速）はスムーズか。チェーンがロー側及びトップ側に外れないか。



■各部のネジはゆるんでません

★自転車の前車輪と後車輪を別々に持ち上げて（10～20cm）軽く落として異音や取付けのズレはないか、異音がある場合は、ネジやナットがゆるんでいます。



■ライトは点灯しますか

でかける前にはライトが点灯するか回転部分がスムーズに作動するかどうか確認してください。

■補助車の点検

お子さまが補助車付自転車に乗られる場合は、自転車本体に補助車がしっかり固定されていてガタつきがないかご確認の上ご乗車させてください。又、補助車輪は地面から1～2cm浮いた状態が正常です。



6. 正しい使用条件

注意

■最大積載重量

積載装置を装備した場合の最大積載重量及び積載物の大きさ（積載装置を装備していないときには適応されません）

前カゴ、後キャリア以外の箇所に荷物を積まないでください。荷物を積む場合は規定の大きさ、重量を守って、ズレたり、ヒモがゆるんだりしないようにご注意ください。荷物がブレーキワイヤーに引っかかったり、ヘッドランプ、テールランプなどがかくれないようにしてください。

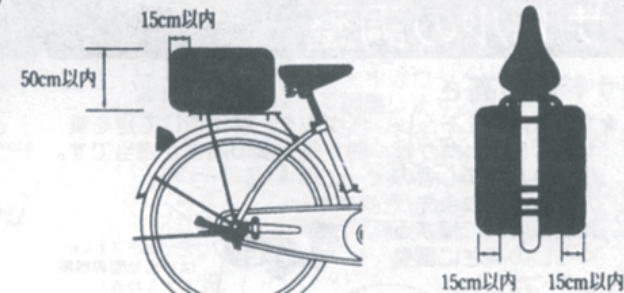
※前カゴに荷物を乗せる場合は5Kg以下（子供車2kg以下）

※幼児車には、荷物をつまないでください。



●最大積載重量を超える荷物は絶対に積まないでください。

●大きな容量クラスのリアキャリアを取り付けても、その自転車の最大積載重量を超えて積載しないで下さい。



車種	実用車	シティサイクル(軽快車)	スポーツ車	子供車
最大積載重量	30Kg以下	15Kg以下	10Kg以下	5Kg以下
後キャリアの容量クラス	クラスS	クラス18	クラス10	クラス10

※上記の最大積載重量は、前カゴと後キャリアに荷物を同時に載せた場合の合計した重量です。（但し、各都道府県の道路交通規則により多少異なります。）
※後キャリアの容量クラスを超える荷物は積まないで下さい。機種によっては上記と異なる場合がありますので、販売店に確認又は説明書をお読み下さい。

■標準乗用速度及び標準乗員体重

※スピードの出しすぎは危険ですので安全速度を守ってください。

	スポーツ車	シティサイクル(ミニサイクル)	シティサイクル(軽快車)	実用車	子供車	幼児車
常用速度km/h	15～24	10～14	12～15	8	8～12	5～8
標準乗員体重kg	65	65	65	65	40	20

■標準適応身長

身長に合った自転車の調整は、サドルにまたがり両足先が地面につくように調整することが適当です。サドルの高さを調整しても両足先が地面につかないものや、足が余るようなものは正しい調整とはいえません。下の表を参考にサドル高さの調整目安にしてください。わからない時は販売店に相談してください。



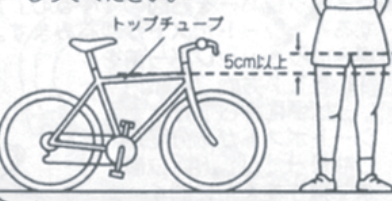
◆シティサイクル・軽快車の目安

サドル地上高さ (cm)	適正身長 (cm)
70	140
75	150
80	160
85	170
90	180

標準適応身長

◆マウンテンバイク車の目安

自転車にまたがって立ったとき、股下とフレームの上パイプ（トップチューブ）との間に5cm以上の余裕をもってください。



■乗員体重

●車輪径の呼び20以上の大人車：65Kg ●車輪径の呼び24以下の子供車：40Kg

★乗員体重は、その車種を設計するうえで標準的な乗員の体重（質量）です。

★この自転車は、乗員体重を65Kgで基本設計しております。従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、消耗度合、劣化度合が大きくなりますので、品質保証を致しかねることもあります。予めご了承のうえご使用願います。



7. 主な各部の取扱いと調整

注意

安全確保のため、調整は「お子さま」には絶対にさせないようにして下さい。次の調整を確実に正しい取り扱いをお願いします。これを怠りますと思わぬ事故につながります。ご不明の点がございましたらお買求めの販売店にお訪ねください。

■正常な乗車姿勢

正常な乗車姿勢をとれるよう、ハンドルとサドルの高さを乗車する人の体格に合わせてください。疲れず、安全に走るには、乗車姿勢が基本です。サドルにすわり、両足をペダル、両手をハンドルニギリにおいて次の操作が出来るようにしてください。

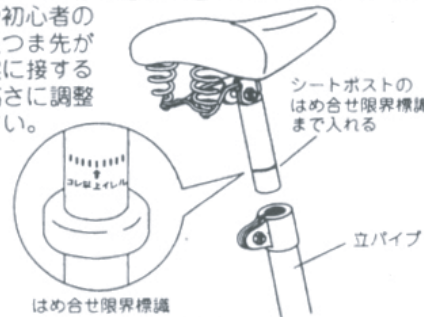
- 1.ペダルの駆動操作が円滑にできる
- 2.ブレーキの制動操作が容易にできる
- 3.ハンドルの操縦操作が容易にできるようにサドル、ハンドルの位置を適正に調整してください。



サドルの調整

■サドルの高さ

★サドルに腰をおろし、ペダルを一番下にして足を乗せたとき、ヒザが軽く曲がる程度の高さが適当です。小さい方や初心者の方は、両足つま先が地面に確実に接するくらいの高さに調整してください。

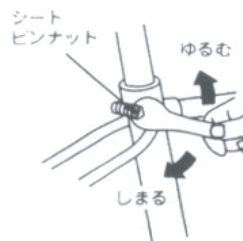


●最も高くした場合でも、シートポストのはめ合せ限界線が見えなくなるまで挿入してください。サドルのシートポストが折損してケガの恐れがあります。

■調整方法

●シートピン式の場合

★シートピンナットをスパナで時計回りと反対方向へ回すと固定がゆるみサドルを上下に調整できます。固定する場合は時計方向に回して締付けます。



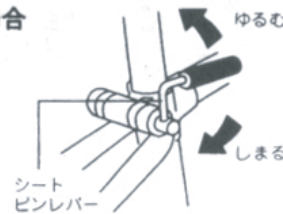
●クイックレバー式シートピンの場合

★クイックレバーを右図の「ゆるむ」方向に操作すると、シートポストがゆるみます。固定する場合はクイックレバー前を「しめる」方向 (A) にいっぱい押しつけます。シートポストが十分固定しなかったり、(A) 位置まで操作する前に固くなったりする場合はレバー反対側の調整ナットを回して調整してください。



●レバー式シートピンの場合

★シートピンレバーを時計回りと反対方向に回すと、シートポストがゆるみます。固定する場合は、時計方向に回して締付けます。



●六角穴式シートピンの場合

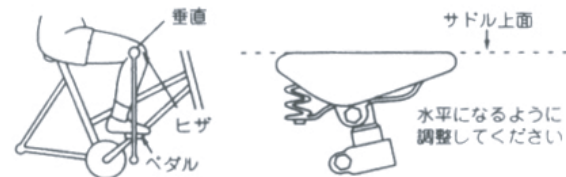
★5mm六角棒レンチを時計回りと反対方向に回すとシートポストがゆるみます。固定する場合は、時計方向に回して締付けます。



●左側を回すとシートラグが破損します。絶対に回さないでください。

●サドルの前後位置

★サドルの前後位置は、ペダルを斜め前の一番力のかかる位置にして足を乗せたとき、膝の中心からの垂線がペダルの中心を通る様にするのが標準です。また、角度はサドル上面がほぼ水平になるように調整してください。



■調整方法

★サドルの前後位置は、サドル取付ナットをゆるめて調整します。調整後はサドル前先端をフレームの中心に合わせ、サドル取付ナットをしっかりと締付けてください。



ハンドルの調整

■ハンドルの高さ調整

サドルに腰を降ろして、ハンドルを握ったときに肩や肘に余分な力が入らず、状態がリラックスできるくらいの高さが適当です。ハンドルバーとハンドルポストの取付け角度はハンドルを横から見て、ニギリ部とハンドルポストと直角になるのが標準です。

●ハンドルの角度調整

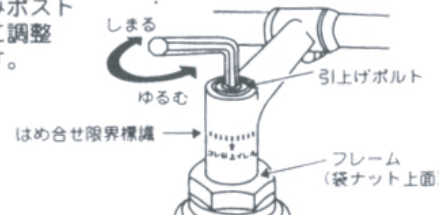
ハンドルバー締めつけナット (ボルト) を必ずゆるめてから、ハンドルバーの角度調整をしてください。調整後は締めつけナット (ボルト) を元どおりにしっかりと締めてください。



●ハンドルの高さ調整

★ハンドルステムの引上げボルトを2~3回ゆるめます。対辺13mmスパナ (六角穴付ボルトの場合は六角棒レンチを使用してください)。

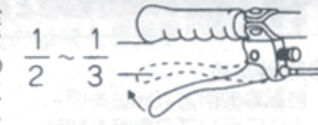
●ボルトの頭に木片などを当ててかたたくと固定がゆるみボルトは上下に調整できます。



●最も高くした場合でもハンドルステムのはめ合せ限界線が見えなくなるまで挿入してください。ハンドルが折損してケガの恐れがあります。

ブレーキの調整

★ブレーキは自転車を安全に乗りこえるために一番大切なものです。いつも最高の性能が発揮できるように乗車の前には必ず点検してください。ブレーキレバーを操作し、レバーの開きが1/2~1/3位でブレーキが効くようにしてください。

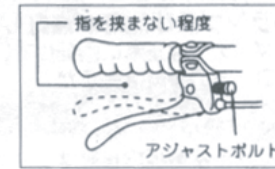


●適正なブレーキレバーの開き

ブレーキレバーとニギリとの間隔は、ブレーキをかけていない状態で、ニギリを握ったまま2本または3本の指の第一関節でブレーキレバーを巻き込む事のできる幅に調整します。



ブレーキレバーの角度は、サドルに座り、腕を伸ばしてその延長線上に沿うようにセットします。



ブレーキレバーは、強く握ったときでも指が挟まらないようにワイヤーを張っておきます。

●ブレーキレバーの遊びと調整

★長期間使用しますと、ブレーキワイヤーの伸びなどによりブレーキの効きが悪くなります。その場合、下図のロックナットを一時的にゆるめて、指でブレーキゴムを両側からリムに押し付けるようにしてアジャストボルトをゆるめてブレーキレバーの遊びを調整して、ロックナットを締めます。リムとブレーキゴムの隙間が左右平均して2mm位が適当です。



●ブレーキワイヤーの交換時期

ブレーキワイヤーは、1年ごとに交換してください。但し、サビやほつれの異常を確認したときは、すみやかに交換してください。

●バンドブレーキの調整

●ロッド式バンドブレーキはロックナットをゆるめアジャストナットを回して調整します。
●ワイヤー式バンドブレーキはロックナットをゆるめアジャストボルトを回して調整します。
●いずれも調整後はロックナットをしっかりと締めてください。あまりブレーキを効かせすぎますとドラムとライニングが接触し、車輪の回転が重くなりますから注意してください。

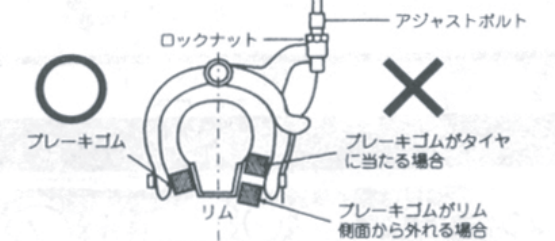


●次の場合は販売店に相談してください。



●ブレーキ各部は説明書記載以外の調整を自分で行わないでください。

1. アジャストボルトで調整仕切れない場合。
2. 片効きしていませんか。片効きをしていると適切なリムとの隙間が得られないばかりか、ブレーキゴムが常にリムに当たり、ブレーキゴムの摩耗が激しくなります。
3. ブレーキゴムは、リム側面にきちんと合っていますか。ブレーキをかけたとき、ゴムがタイヤに当たっていると、タイヤ切れの原因になります。又、リム側面からブレーキゴムが外れているとブレーキゴムの片減りを起こします。
4. ブレーキゴムが摩耗して溝の残りが1mmになったときは、ブレーキゴムを交換してください。
5. ブレーキの効きが悪くなった場合。



変速機の手扱いについて

●内装3段変速機 (例、ピアノタッチ1-2-3チェンジ) の取扱い
後ハブ内に変速機を組み込んだ内装3段変速機です。

使い方

●スタートするとき等ペダルが重く感じるときは、下のレバーを横に押し、上のシフトレバー位置を (スタート) にして下さい。



●軽い荷物や積んだときや平坦な道などでは上のシフトレバーを下に押し、シフトレバー位置を (II) にして下さい。



●追い風やペダリングに余裕のあるときは、上のシフトレバーを一番下に押し、シフトレバー位置を (III) にして下さい。



取扱い上の注意点

安全にご使用いただくため、必ずお守りください。



1. (III) から (II)、(II) から (I) に変速操作するとき、ペダルの踏力を弱くするか、回転を止めるかして行ってください。足をすべらす等の危険があります。

2. ベルクランク部分には、絶対に足をかけないでください。
3. シフトワイヤーはカゴブラケットや前カゴのワイヤー掛けには絶対に通さないでください。
4. 変速がスムーズに行なわれなくなったときは、販売店にて調整してください。

その他の内装変速機の手扱い (インター3、インター4、インター7等)
これらの内装式変速機は、内装式の為、注油等のメンテナンスが基本的に不要で、それによるトラブルも起きにくくなっています。

変速操作はレボシフトと呼ばれるニギリ部分に設けられた変速装置を回すことで変速ができます。詳しくは、各専用取扱い説明書をご覧ください。

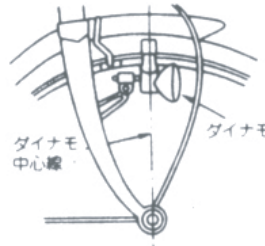


ランプ類の取扱いについて

ランプ類は走行の安全上正しい取扱いが必要です。この取扱い事項は、一般的な発電ランプについて説明しています。電池式ライトの場合は、電池がなくなり次第新しいものと交換をしてください。特殊なランプを使用の車種については販売店にお問い合わせください。

●ダイナモの位置

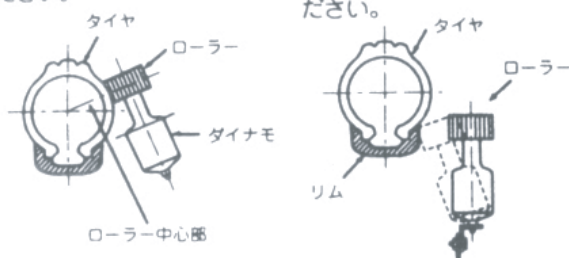
ダイナモの中心線延長がハブの中心にあっているか確認してください。取付けがゆるんでダイナモが前に傾いた状態での走行は車輪に挟まれる恐れがあり危険です。販売店に相談してください。



●起倒レバーを倒し、ダイナモを駆動状態にしたとき

●**タイヤドライブの場合**
ローラーの中心がタイヤに接触しているか確認してください。

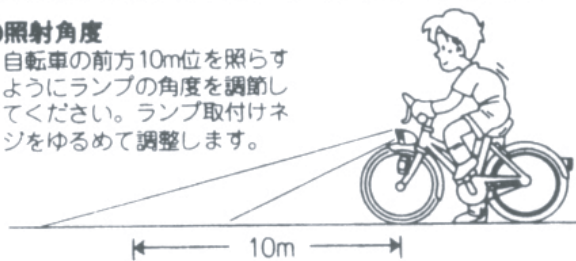
●**リムドライブの場合**
ローラーの先端がリムに接触し、タイヤには、接触していないことを確認してください。



●夜間及び暗い所を走行するときは、必ずランプを装備し、点灯することが法律で定められています。

●照射角度

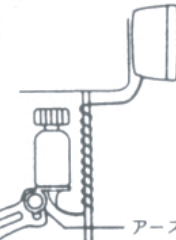
自転車の前方10m位を照らすようにランプの角度を調節してください。ランプ取付けネジをゆるめて調整します。



●ランプ及び尾灯が点灯しないとき

- ダイナモは正常に回転しているか
- コードの接続は完全か
- アースは完全か
- 電球は切れていないか
- 電球と接触板の接触はよいか
- 電球は正しいボルト、ワットか

(1ランプ車の場合)



(2ランプ車の場合)

2ランプの場合、ランプから2本のコードを1本ずつダイナモに接続してください。テールランプのコードはどちらか一方の端子に接続してください。

●電球の取り替え

電球を取り替える時には同じ仕様の電球をご使用下さい。なお、特殊なライトシステムの場合は使用箇所により電球の使用が異なりますので、販売店で確認の上、交換補充するようにしてください。

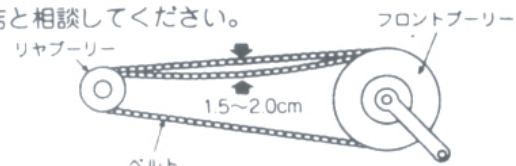
チェーンの調整

チェーンの張りは図のような遊びが必要です。張りすぎ、たるみすぎがあるようでしたら、販売店にご相談ください。



ベルト車の取扱い

ベルト車は、操作感がスムーズな上、油を必要とせずチェーンに比べて伸びが少なくメンテナンスの手間のない新しい駆動方式です。ベルトは下図のような遊びが必要です。これ以上にたるむようでしたら、販売店に相談してください。



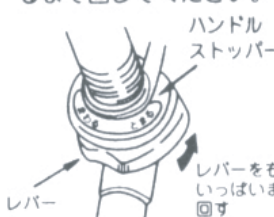
- ベルトは通常の使用で切れる事はありませんが刃物等鋭利なもので傷つくと切れる事がありますので日常の点検をお願いします。
- ベルトは注油する必要はありません。油が付着し衣類を汚すおそれのあるときは乾いた布又は水に浸して固くしぼった布で拭きとってください。シンナー、ガソリン、アルコール等は使用しないでください。
- ベルトは消耗品です。定期点検、整備(2ヶ月、6ヶ月、1年、1年半、以後6ヶ月毎)を必ず行ってください。ベルトの交換は必ず販売店にて交換してください。

ハンドルストッパー(例、くるヒタ)の取扱い

ハンドルストッパーは駐輪時、ハンドルがふらつくのを防止し、ハンドルを固定するものです。

●固定する場合

ハンドルストッパーのレバーを右(「止まる」の表示の方向)へ動かなくなるまで回してください。



●解除する場合

ハンドルストッパーのレバーを左(「まわる」の表示の方向)へ動かなくなるまで回してください。



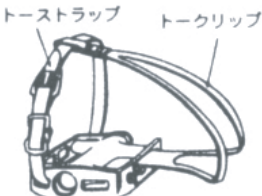
※レバーを左に回しても解除できない場合には、ハンドルを軽く左右に回しながらレバーを操作してください。

●走行するときは必ず解除してください。

トークリップの取扱い注意

●トークリップ使用の場合

車種により、ペダルにトークリップを装着できますが、お子さまや初心者の方は、つけるのをやめください。トークリップはペダルの上の足位置が確実に決まり、踏む力の他に引き上げの脚力も使える、サイクリングや高速走行に有効なパーツですが、誤った扱い方をしますと危険ですので十分注意してください。



幼児車の取扱いについて

小さなお子さまが自転車に乗る場合は、必ず保護者の方が乗る前に点検をしてあげてください。又、発達途上で体力や判断力も未熟ですので下記の事項を保護者の方がお子さまに注意するようわかるまで教えてあげてください。

1. ブレーキに手がとどいているかどうか。又、ブレーキは左右同時にかけるようかけ方がわかるまで教えてあげてください。
2. 下り坂ではブレーキが効かないことがあり大変危険ですので、スピードを安全な状態まで落として走行するように指導ください。
3. 駐車している車の後などで遊ぶと大変危険ですので遊ぶときや練習をする時は、公園や広場などの安全な場所で乗るようにしてください。
4. 交通ルールや標識の見方については、保護者の方が指導し、教えてあげてください。

●補助車輪について

お子さまが補助車付自転車に乗れる場合は、自転車本体に補助車輪がしっかり固定されていてガタつきがないか確認の上ご乗車させてください。又、補助車輪は地面から1~2cm浮いた状態が正常です。又、乗りなれてきましたら両立スタンドに取り替えてあげてください。

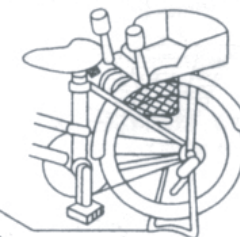


幼児用子供乗せ台の取り付け



●お買い求めいただきました自転車の車輪のサイズ、リム、タイヤをご確認ください。車輪サイズ24未満の車種及び700C車輪を使用している車種は幼児用座席を取付けできません。

一本スタンドの自転車には幼児用座席は取り付けられません。必ず、ロック付の両立スタンドをご使用ください。



●幼児用座席取付け上の注意

- 自転車に後用幼児座席を取付ける場合はクラス18以上の後キャリアを使用し、後用幼児用座席を取付けてください。
- 後用幼児用座席は、幼児の足が車輪に巻き込まれない位置にカバーの付いた幼児用座席を必ずご使用ください。
- 幼児用座席及び後キャリアの取付けは販売店におまかせください。
- 詳しくは販売店にご相談ください。

タイヤの取扱い

●WOタイプとHEタイプ

■WOタイプ

WOタイプ/ビードワイヤーがリムの全長より短く、その強力がタイヤを固定するタイプ



■HEタイプ

HEタイプ/ビードフックという引っかかりでタイヤを固定するタイプ



●ドレッドパターンの溝の深さがなくなったものや、傷、割れ、シワ、亀裂等のある場合は、事故につながる恐れがありますのですぐに交換してください。

●700C(28C・25C)タイヤの取扱い

通学、通勤及び業務等の使用において注意が必要です。下記条件(制限)をご理解の上、ご使用ください。

1. 積載重量: 前キャリアー最大積載重量 2kg
後キャリアー最大積載重量 4kg
2. タイヤの空気圧: 標準空気圧: 8~6kgf/cm² 親指で強く押し付けて少しへこむ程度

※上記の条件に基づいた使用以外の使用で不具合が生じた場合は品質保証の責任を負いかねますので予めご了承ください。

●タイヤ(チューブ)バルブの形式と空気の入れ方

ご使用自転車のバルブの種類をご確認ください。バルブの形式には「英式」、「米式」、「仏式」とあります。又、ポンプの口金形式はメーカーによって異なりますので詳しくは販売店にご相談ください。

■取扱い上の注意

- お子さまの安全にとくにご注意ください。
- 後部にお子さまを乗せた場合、サドルのスプリングに手をはさまないように注意してください。
- 安全確保のために走行中は、お子さまにヘルメットを着用させてください。
- 幼児用座席にお子さまをお乗せになるときは、必ず幼児用座席が固定されているか確認してください。
- 幼児を乗せたまま、スタンドを立てて放置しないでください。停車するときは必ずお子さまを降ろしてください。
- 前部子供乗せの場合は、セフティロックを必ずかけてください。
- 幼児座席に乗れるお子さまの年齢・体重等については、各都道府県の条例によって異なりますので販売店におたずねください。(例)大阪府は、後部座席では6才未満、前部座席では2才半までの幼児が乗せられます。※但し、二人同時には乗せられません。



●幼児を乗せたまま自転車を離れないでください。

タイヤの空気圧について

- タイヤの空気圧が少ないと、接地面積が広がって走行抵抗が大きくなるほか、パンクや、タイヤ、リムの損傷の原因になります。タイヤに表示している空気圧の範囲内でご使用下さい。

表示例: (○○○KPa, ○○kgf/cm², ○○PSI)

- (注) 換算率: 1KPa=0.01kgf/cm²=0.145PSI
- 仏式バルブ及び米式バルブは、専用のタイヤゲージで空気圧を測定することができます。販売店にご相談ください。
- タイヤゲージが無い場合は、自転車に乗車したときのタイヤの接地長で判断してください。(7P参照)

ブザーの取扱い

警報器(ブザー)は、安全のためいつも正常に鳴るようにしておいてください。

●乾電池の交換

ブザースイッチボタンを押したとき、音が小さくなったリ鳴らなくなったときは、乾電池をとりかえてください。スイッチを押したとき、暗かったり点灯しなかったときは、電球を交換してください。使用電球は2.5V、0.3Aです。特殊なブザーの場合、仕様が異なりますので販売店で確認の上、取扱いをお願いします。

ディレーラー(変速機)の調整と取扱い

ディレーラーは、坂道や風向きなどの走行条件の変化に応じてギヤ比を変え、ペダリングの速さ、踏力を一定にして疲れを少なくする装置です。右側レバーでリアディレーラー、左側レバーでフロントディレーラーを作動させ、チェーンの掛るギヤ位置を変えてギヤ比を変えます。この取扱い説明書は一般的なディレーラーについて説明していますが、特殊なディレーラー使用車種については、各ディレーラーの専用説明書をよくお読みいただき正しい取扱いをお願いいたします。

■ディレーラー(変速機)の使い方



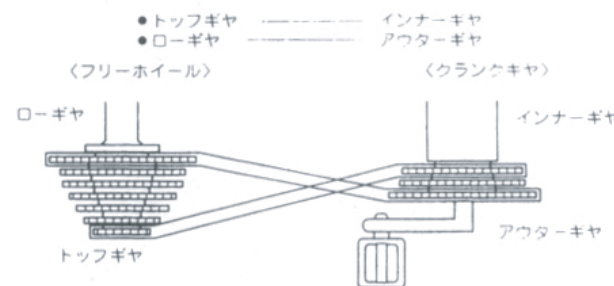
●坂の手前で早めに变速操作をしてください。(坂の途中では变速がしにくい。無理に变速しようするとチェーンが外れて転倒、ケガをする恐れがあります。)



●下っているときは後ブレーキをかけながらスピードが出すぎないようにコントロールしてください。

■操作上の注意

- ★ペダルを止めたまま、または逆回転させながらシフトするとディレーラー・チェーンを痛め、故障の原因になります。
- ★ペダルを強く踏みながらシフトしたり、一気に二段以上シフトすると、チェーン・ギヤの寿命が短くなるばかりでなく足をペダルから踏み外したりチェーンが外れたりして転倒する恐れがありますので避けてください。
- ★下図のようにチェーンが斜めになる使用(アウターギヤとローギヤ及びインナーギヤとトップギヤの組み合わせ)は、チェーン及びリアディレーラーに無理が掛かりますので、避けてください。

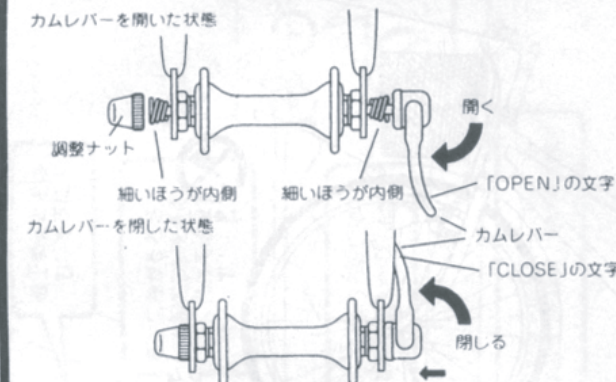


- ★チェーンが外れたり、円滑にシフトできないときは、転倒などの危険がありますので調整が必要です。(ディレーラーは微妙な調整が必要です。又、メーカー及び機種によって構造と調整方法が異なります。むやみに調整ネジを回すとさらに調子が悪くなることがあります。)必ず販売店に依頼してください。

クイックリリースハブの使い方

●クイックリリースの構造

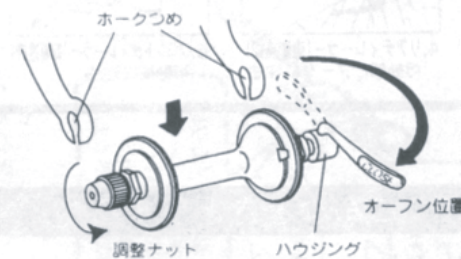
レバーがカム機構となっており、このカムレバーを開けるとハウジングと調整ナットが内側に動きます。この力によりフレームに車輪を固定しています。



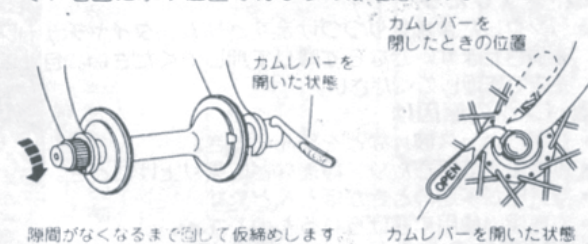
- フレームに車輪を固定するとき、カムレバーを回して締め付けしないでください。クイックリリースのカム機構が動かなくなり、車輪の固定が不完全になり非常に危険です。

●クイックリリースの操作

- ロックナットとクイックリリースの調整ナット及びハウジングのあいだに、エンド(ホークつめ)が簡単に入るまで、調整ナットを下図の様に回してゆるめます。

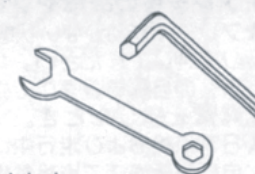


- カムレバーを開いたままにして、エンド(ホークつめ)とクイックリリースの調整ナットとハウジングの隙間がなくなるまで調整ナットを左図のように回して締めます。なお、調整ナットの調整をするときのカムレバーの位置は、カムレバーを開いたときの位置を想定して、右図に示す位置で行なうのが理想です。



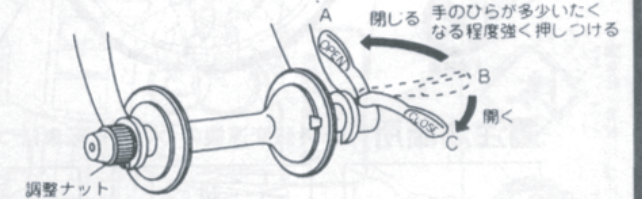
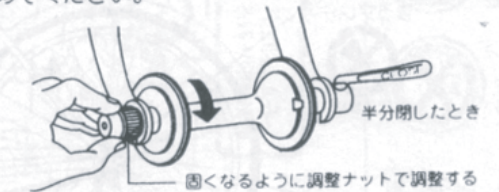
工具の取り扱いについて

日常の点検等でネジのゆるみなどが生じた場合は、メガネレンチや六角棒レンチなど適正な工具を使って調整をしてください。※不適正な工具を使用すると十分な締め付け及び調整ができなくなることがあります。



●クイックリリースハブは、車輪の脱着には大変便利にできていますが、使用を誤ると非常に危険なものになります。クイックリリースハブの使用法をよく理解された上で取り扱いください。解除している状態では絶対に自転車に乗車しないでください。車輪が外れてしまい危険です。

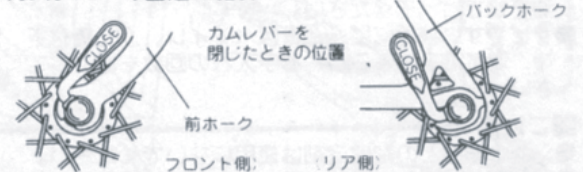
- カムレバーが半分位閉じたときに固くなるように調整ナットで調整し、完全にカムレバーを開けてください。カムレバーを開けると手のひらが多少痛くなる程度の力で締めてください。押し付ける力は、カムレバー先端から5mmの位置に160N(16kgf)~220N(22kgf)で締めてください。



- カムレバーをAの位置まで操作したときに十分固定出来る事が重要です。もし、カムレバーが固すぎたり、ゆるすぎて固定が十分でないときは、危険ですから調整ナットを回して再調整してください。

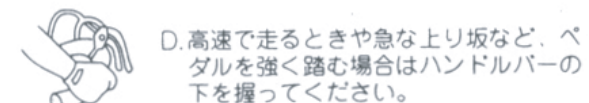
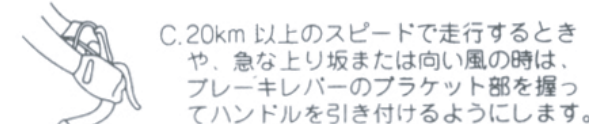
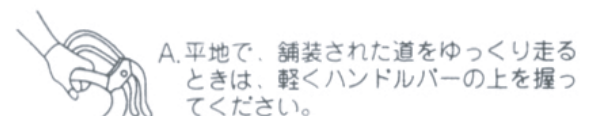
※車輪を固定したあと必ず固定の確認をしてください。(7P参照)

- 車輪の中心線と前ホーク、フレームの中心線を合わせてください。
- カムレバーは前車輪、後車輪とも乗車して左側になるようにしてください。
- カムレバーを固定するときのカムレバーの位置は前ホークまたは、バックホークに平行に沿わせてください。
- カムレバーの固定の確認

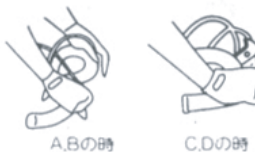


ドロップハンドルの使い方

ドロップハンドルは高速走行や長距離のサイクリングに適したハンドルです。走行条件により握る位置を変えることで疲労を最小限に抑える事が出来ます。



それぞれのハンドルポジションの時、右図のようなブレーキレバーの持ち方をして下さい。



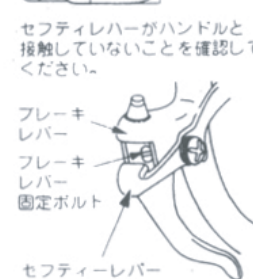
※お子さまや、初心者の方は使いなれるまで十分に練習をしてください

■セフティレバーの取付け位置

セフティレバーは操作時にハンドルバーに接触しないように取付けられていることを確認して下さい。



セフティレバーがハンドルに接触しているときは、ブレーキレバーの固定ボルトをゆるめ、ハンドルバーと接触しないように調整してください。



- セフティレバーでのブレーキは、通常のブレーキよりもブレーキの効きが弱くなりますので注意してください。

〈品質保証規定〉

保証の適応除外

次に示すものに起因する故障は保証修理の対象となりません。(使用者負担になります)

- ア. 使用者の使用上の不注意によるもの。
- イ. 衝突、転倒、道路の段差等により生じたもの(最大積載量オーバー、二人乗り等)。
- ウ. 法令の違反行為によって生じたもの(最大積載量オーバー、二人乗り等)。
- エ. 保守、整備の不備または間違いにより生じたもの。
- オ. 当社が指定する定期点検調整を実施しなかった場合。
- カ. 使用者が構造、機能を改造または変更したため生じたもの。
- キ. 酷使又は一般に自転車が行き止まない場所での走行(道のない山岳ツーリング、道のない土手の傾斜面等)により生じたもの。
- ク. レンタサイクルなど不特定多数で使用される場合。
- ケ. 地震、落雷、火災、水害、公害、その他人災、天災、地変によって生じたもの。
- コ. 手入れ不十分、保管場所の不備及び時の経過により生じた塗装面、メッキ面、その他これに類する不具合及びプラスチック部品等の自然退色。
- サ. 部品の通常の摩耗又は疲労と認めたもの(タイヤ、チューブ、ブレーキ用ゴム等のゴム類)。
- シ. くぎ、ピン、ガラス、切削くず、鋭利な石ころ等で生じるパンク。
- ス. 一般に機能上の影響のない感覚的現象(音、振動等)。
- セ. 本保証書に示す条件以外の費用等。
- ソ. この保証書は盗難保険ではありません。盗難保険及び防犯登録については販売店にご相談ください。

◇保証修理を受けるための条件及び手続き

- 保証修理を受けるためには次のことがらをご了承願います。
- 保証修理を受ける場合、本保証書と自転車をご持参下さい。
- なお本証の提示がないと保証修理は受けられません。本保証書は字句等を書換えた場合無効とします。
- ご贈答、転居及び他に譲渡する場合にはお買上げ店にご相談下さい。
- お買上げの自転車は初期点検(2カ月以内)その後1年ごとの定期点検を受けてください。
- この定期点検を受ける際には自転車と定期点検調整チェックリストを提示して下さい。定期点検、調整は有料です。
- この保証書は日本国内で使用される自転車で、車体ナンバーの刻印があるものに適用されます。海外に持出す場合はその時点で打ち切りとなります。
- 保証修理に関するお問合せは、お買上げ店にご相談下さい。
- 修理に関し出張修理の依頼を受けたときは、出張費を請求する場合があります。

保証対象外部品(次に示す物の、交換修理は使用者負担となります。)

カゴ、バッグ、ドレスガード等の付属品、ブレーキワイヤー、ギヤチェンジ用ワイヤー、ワイヤー取り付け金具、コード類、ダイナモゴムローラー、乾電池、電装品、電球、レンズ、その他、「コ・サ」の項の摩耗品及び疲労品、使用者が、ご自分で取り付けた部品。

- この保証書は、本書に明示した期間、条件に基づき保証修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- 保証期間経過後の修理等についてご不明の点はお買上げ店又は、相談窓口(品質保証書記載の住所)にご相談ください。

● 部品の保有期間

保証期間経過後でも性能を維持するための補修機能部品は、お買上げ店又は、製造業者に常時保有しております。但し、新型が売り出された場合は、新型で保有しておりますので予めご了承願います。

〈販売店へのお願い〉

- 品質保証書を発行する際は、保証書の各項目をご記入お願いします。
- (控)は貴社の控えとして必ず大切に保存してください。
(保存期間は10年です)
- (保証書)の販売店名欄に貴社名を記入捺印してお客様に必ずお渡しください。

●点検・調整チェックリスト (点検時期外でも、異常を感じた場合、点検・調整をお受け下さい。)

※書き方…点検…良好○ 不備×

点 検 項 目		2ヵ月以内		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと			
		点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整		
1	大きさは乗り手の体格に合っているか																
	●サドルにまたがって、足が地にとどくか、またサドルの固定は確実か																
2	●ハンドルの高さは適当か、また固定は確実か ●乗る人の上体が少し前に傾くように、サドルの前後の位置が調整されているか																
	●1～2は幼児・お子さまにご留意ください。																
3	フレーム・前ホークに変形や亀裂などはないか																
4	ヘッド・ハンガー小物にカタ・摩耗はないか																
5	ドロヨケはしっかりと取りつけてあるか																
6	キャリヤ(荷台)は片寄っていないか、またしっかりと取りつけてあるか																
7	スタンドの取付けと作動はよいか																
8	タイヤの空気のはいり具合は適正か、タイヤはすりへっていないか																
9	ペダルはクランクと直角になっているか																
10	クランクに曲がりはないか、キヤクランクは、なめらかに回転し、カタはないか																
11	ペダルはなめらかに回転するか																
12	車輪の振れ・スボークのゆるみ・軸部のガタはないか																
13	フリーキム類、シュー・パット・ライニングなどすりへっていないか																
14	レバー間隔は正常で前後のブレーキはよく効くか																
15	チェーンのたるみ・張りは適正か																
16	発電ランプは点灯するか、ネジはゆるんでないか																
17	リフレクターはこわれていないか、よごれていないか																
18	ベルはよく鳴るか、ゆるんでないか																
19	錠の取付と機能はよいか																
20	ギヤチェンジは正確に作動するか、またチェーンがはずれないか																
21	フリーホイールの回転と注油はよいか																
22	チェーンケースの形状と取付はよいか																
定期点検・調整を実施した販売店ならびに年月日		年 月 日	㊦	年 月 日	㊦	年 月 日	㊦	年 月 日	㊦	年 月 日	㊦	年 月 日	㊦	年 月 日	㊦	年 月 日	㊦

●点検整備のお願い

●お買い求め後2カ月以内に第1回目を、「第2回目」はその後1年ごとに実施してください。なお、点検・整備はお早めに販売店に依頼されることをおすすめします。(有料)

(定期点検・整備)

●点検時期外でも、異常を感じた場合上記の点検を実施し、調整・修理してください。



警告

ご乗車前点検に関しまして

毎時、ご乗車前には必ず以下の項目を点検してください。

下記の写真は、弊社の代表的な自転車です。ご購入されました自転車により、装備の内容、形状が異なります。予めご了承ください。

1. ハンドル部の確認 ○各部の締め付け



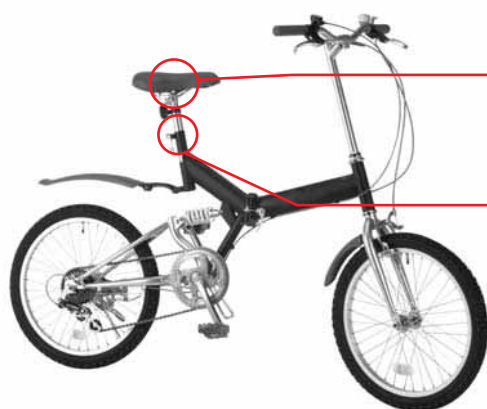
・ハンドルバー

ハンドルバーがしっかりと固定されているか確認してください。

・ハンドルポスト

前輪を固定した状態でハンドルを左右に動かして、しっかりと固定されているか確認してください。

2. サドルの確認 ○各部の締め付け



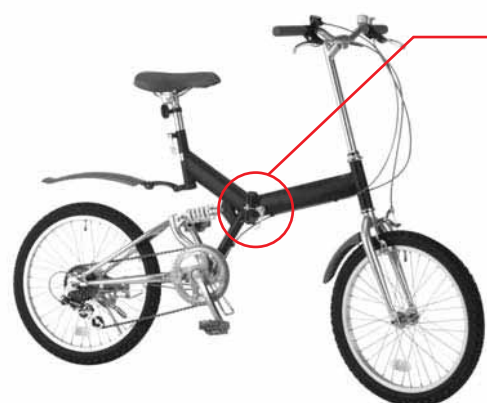
・サドル

またがった状態でグラつきや傾きが無いか確認してください。

・シートポスト

フレームを固定した状態でサドルを左右に動かして、しっかりと固定されているか確認してください。

3. 折りたたみ部の確認



・クイックレバー

しっかりと固定されているか確認してください。

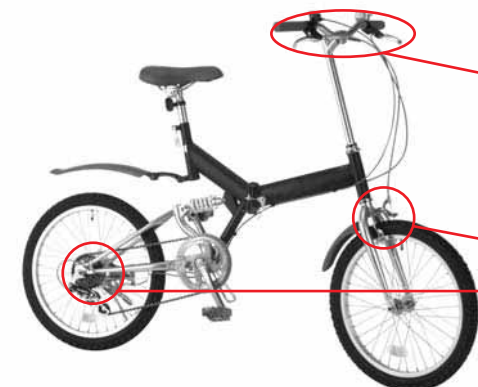


警告

ご乗車前点検に関しまして

毎時、ご乗車前には必ず以下の項目を点検してください。

4. ブレーキの確認



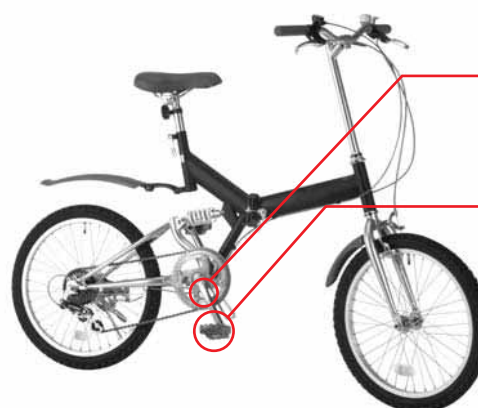
・ブレーキワイヤー

ブレーキレバーをしっかりと握り、車体を前後させてブレーキが利くことを確認してください。

・ブレーキパッド

片効きしている場合は取扱説明書にしたがって調整を行なってください。また、ブレーキがしっかりと固定されているか確認してください。

5. ペダル・クランクの確認



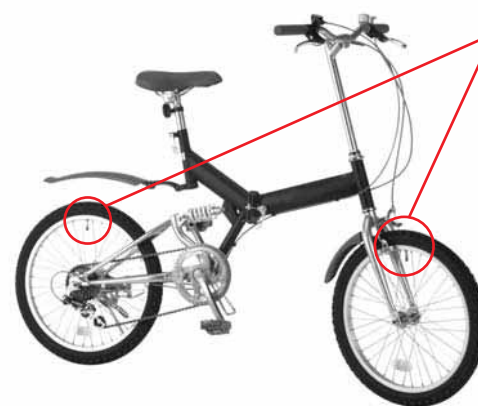
・クランク

しっかりと固定されているか、異音はしないかご確認ください。

・ペダル

スムーズに回転するか、ガタつきはないか確認してください。

6. タイヤの確認



・タイヤの確認

タイヤチューブに十分に空気が入っているか確認してください。

※上記の箇所以外にもガタつきやゆるみがないかご確認ください。